

氏 名 越野 健司
学位の種類 博士 (医学)
学位記番号 甲第339号
学位授与年月日 平成22年9月1日
審査委員 主査 教授 川内 秀之
副査 教授 山口 修平
副査 教授 丸山 理留敬

論文審査の結果の要旨

人口の高齢化や食生活習慣の欧米化などにより、胃食道逆流症 (GERD) は増加傾向にあり、消化器診療の中でも重要な位置を占める疾患となっている。GERD は、食道運動機能 (下部食道括約筋圧、食道体部蠕動)、唾液分泌、胃排出能などの低下により、逆流した酸性胃内容物に食道が長く暴露され発症すると考えられている。消化管運動機能改善薬であるクエン酸モサプリドは、その作用機序として、食道運動機能亢進作用、唾液分泌亢進作用、胃排出促進作用があるが、本邦では常用量での胃食道逆流症に対する有用性について検討されていない。今回申請者はその有用性について、唾液分泌、食道運動機能、食後の胃食道逆流の観点から、詳細な検討を行った。

健常男性ボランティア 9 名を対象としたクエン酸モサプリドの食道運動機能および唾液分泌に及ぼす影響についての検討では、クエン酸モサプリド 5mg を毎食前に連日投与した 3 日目と無投薬時に、36 チャンネル high-resolution 食道内圧測定法を用いて、唾液分泌および食道運動機能を詳細に検討した。その結果、常用量のクエン酸モサプリドの投与では唾液分泌増加作用は認められず、また下部食道括約筋圧、食道体部蠕動運動圧を亢進させる作用も認めなかった。

次に、健常男性ボランティア 13 名を対象として、クエン酸モサプリド 5mg を毎食前に連日投与した 3 日目と無投薬時に、高カロリー食を摂取させ、液体から気体までのすべての胃食道逆流が検出可能な食道内多チャンネルインピーダンス・pH 法を用いて食後 3 時間の胃食道逆流を測定した。その結果、食道内 pH4 未満%時間には有意な変化がなく、胃食道逆流回数ではむしろ増加傾向を認めた。

申請者が検討した常用量のクエン酸モサプリドの投与では、胃食道逆流症に対する有用性は確認されなかったが、今後は、唾液分泌能や食道運動機能が障害され高頻度に胃食道逆流がみられる GERD 患者での検討により、その有用性の検討が必要であると考えられる。